

かたりべ140

豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループだより

企画展

薬と祈りの処方箋

開催情報

二〇二〇年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大以降、郷土資料館でも東京都の緊急事態宣言にともなう臨時休館や事業の中止・延期が相次ぎました。一方で、館内では新しい生活様式に合わせての見学環境を整えるべく、入口に消毒液や非接触体温計の設置などを行い、皆様にご協力いただいています。

を、古代から近世にかけて紹介します。この時点で「かなりマニアックだな…」と敬遠される方と、「タイムリーだね!」と思う方がいらつしやると思いますが、いずれにしても「豊島区らしさ」を意識した資料を展示します。一番注目の資料はチラシにも掲載している「鬼子母神詣土産べんけい図」です。この資料は郷土資料館リニューアル以前は時々展示していたので、長年当館とお付き合いのある方は「懐かしい!」と感じるかもしれませんね。今回は人々が病と向き合い、どう対処してきたのかという流れで展示しますので、すでにご存知の方も初めて見る方もただ郷土玩具を描いただけでは無いということを展示室でご覧いただければと思います。



豊島区立郷土資料館 令和3年度企画展

令和3年7月20日(火) ▼ 令和3年9月26日(日)

薬と祈りの処方箋

豊島区立郷土資料館
The Museum of Toshima City
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 2-37-4 としま産業振興プラザ7階

休館日	毎週月曜日、第3日曜日、祝日、9月21日(火)
開館時間	午前9時～午後4時30分
入館料	無料
主催	豊島区
特別協力	古代オリエント博物館

ご来館に際してのお願い
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、マスクの着用・手指の消毒・検温など、ご協力をお願いしております。社会状況により、事業を中止・変更する場合がありますので、事前に当館ホームページをご確認ください。



関連事業のご案内

いずれも参加費は無料です

※社会状況により、事業を中止・変更する場合がございます。

また、都内の他自治体からも様々な資料を借用したことで、一区だけでは難しい江戸・東京広域の医療の諸相をご覧いただけます。

この他にも、今回は同じ池袋にある古代オリエント博物館（東池袋三ー一四サンシャインシティ文化会館七階）と初

めてのコラボ企画（古代医療は繋がる）を開催します。古代オリエント博物館では、毎夏に区内の小中学生に向けた事業を実施されています。今回のコラボ企画は昨年度に郷土資料館で実施したキッズデー（「かたりべー三九号」参照）の準備の際に伺った御縁から、実現に至り

ました。両館で相互にワークショップを開催したり、スタンプツアーを実施しますので、夏休みの自由研究にもピッタリです。詳細は当館のホームページ等で確認ください。二〇二一年は春先からの緊急事態宣言により、多くの博物館で企画展が会期の

変更や打ち切りを余儀なくされました。本展示も、無事に会期中ご覧いただけるように祈るばかりです。最後になりましたが、感染対策に尽力される医療従事者、関係者の皆様にご心より感謝いたします。（郷土 井坂綾）

企画展記念講演会 「生薬の伝来と普及―採薬・栽培・本草書と薬園―」

日時：八月一日（日曜日）、午後二時から三時三〇分

場所：としま産業振興プラザ六階・多目的ホール

講師：小林義典氏（北里大学東洋医学総合研究所副所長・薬学部附属薬用植物園園長）
定員：八〇名（事前申込み、七月十七日（土）必着で往復はがきでお申込みください。）

応募者多数の場合は抽選となります。

連続講座「江戸の医療あれこれく地域の違い」（全三回、一回でも参加できます）

日時：九月四日・十一日・十八日（いずれも土曜日）、午後二時から三時三〇分

場所：としま産業振興プラザ三階・研修室二

講師：第一回 多田文夫氏（足立区立郷土博物館学芸員）

第二回 長田直子氏（国立市文化財保護審議会委員）

第三回 金子千秋氏（中央区立郷土天文館主任文化財調査指導員）

定員：十八名（事前申込み、八月十四日（土）必着で往復はがきでお申込みください。）

応募者多数の場合は抽選となります。

担当学芸員によるギャラリートーク

日時：七月二十五日・八月二十二日（いずれも日曜日）、午後二時から三〇分程度

場所：郷土資料館企画展示室（直接展示室へお集まりください。）

【往復はがき記入例】 1事業につき、1人1通まで。応募者多数の場合は抽選。

往信用ウラ ※申込内容を記入

①参加希望事業名 (連続講座の場合は日付も)
②住所
③氏名 (ふりがな)
④電話番号

返信用オモテ ※裏面は記入しない

<input type="checkbox"/>	□□□□□□□□
①住所	
②氏名	

宛先：〒171-0021 豊島区西池袋2-37-4 としま産業振興プラザ7階
豊島区立郷土資料館企画展担当

作品を見る読む

22

小熊秀雄の詩集から

「検印紙とは??」

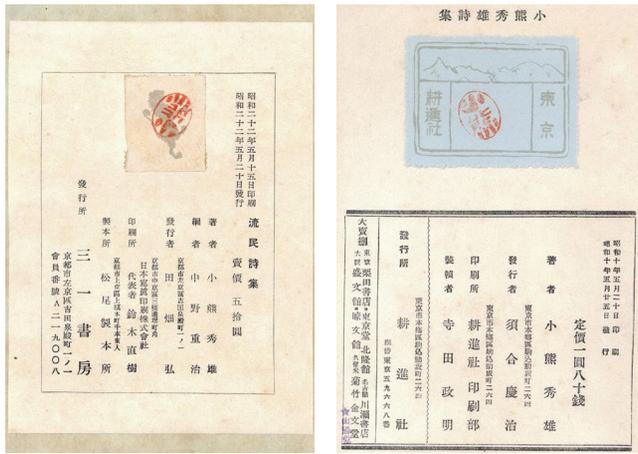
番外編

おぐまひでお
小熊秀雄（一九〇一—一九四〇）の生誕一二〇年にあたる今年度末、豊島区で所蔵する小熊秀雄の絵画作品を全展観する収蔵作品展を計画、準備中です。今回は展示に向けた所蔵資料の調査での発見を一部ご紹介します。

小熊秀雄は「池袋モンパルナス」の呼称を発案し、画業や文筆業など幅広く活動した人ですが、市井では詩人の顔が知られるところで、例えば岩波文庫の『小熊秀雄詩集』は今も販売しており目にした方もおられるでしょう。この本は創樹社『小熊秀雄全集』を主軸に作品を抜粋し編纂したものです。当区では、全集所収の三冊の詩集のうち、一九三五年上梓の二作目『飛ぶ櫓』の初版本と、作家の死後中野重治によって、一九四七年に発行となった『流民詩集』の初版本を所蔵しています。

さて『飛ぶ櫓』の状態を確認していたところ、奥付に貼られた切手大の小さな四角い紙片が目にとまりました。水色の紙に出版社「耕進社」の名と稜線の意匠が印刷され、豪快な太い書体の「小熊」の三文判が朱肉でついであります。

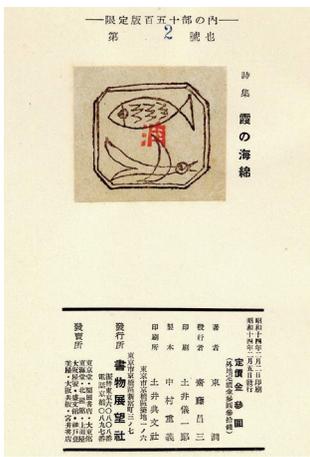
『流民詩集』の奥付も見てみると白い紙に一匹の獅子のシルエットが載り、その上から逆さまに『飛ぶ櫓』と同じ小熊の三文判の押印があります。



この小さい紙は「検印紙」といって、

著者が本の発行部数を確認するために、判子を押し一冊毎奥付に貼付けたものです。日本では一七二二年に海賊版取り締まりのため幕府により奥付を付すことが命じられ、奥付に直接検印を捺印していましたが、明治維新以降に切手形式の検

印紙が現れたようです。時代を経て検印紙の目的は正規版の証から発行部数の管理確認へと推移していきました。検印紙の貼り付けは昭和三十年代頃までであったようです。確かに最近発行された本ではみかけません。出版社名、作家個人のものなど台紙や判のデザインが無数に存在し、検印紙とはいまや古書蒐集集のある種の愉しみとなっています。



『飛ぶ櫓』と同時期に発行された東潤

（一九〇三—一九七七）著『詩集 霞の海綿』（書物展望社 一九三九年）の検印紙はどうでしょうか。この本も、前述の小熊の二冊も装丁は画家の寺田政明

（一九二一—一九八九）です。表紙の鮮やかな黄色地に黒い線のアメーバのような有機的なモチーフの絵が目を引きまします。こちらの検印紙は原始的な象形の鳥や魚の上に「潤」の印があります。このデザインが誰の手によるかは不明ですが、検印紙そのものへの装飾の遊び心が現れています。

「当時は検印制度が常識だったので、わが家では家族総動員で連日スタンプを押しまくった。」江戸川乱歩（一九四一—一九六五）の長男平井隆太郎による回想です。押印や検印紙を貼る作業は作家本人が担うことが多いのですが、作家の家族や出版社の担当も助太刀するなど検印紙にまつわるエピソードは、日本近代文学史上に様々あるようです。古書を前に、もしや検印紙を貼っていた作家の姿を思ってみるのもまた一興でしょうか。

【参考文献】

- 『小熊秀雄詩集』 岩田宏編 岩波書店 一九八二年
- 『最新図書館用語大辞典』 図書館用語辞典編集委員会編 柏書房 二〇〇四年

- 『古本用語事典』 久源太郎著 有精堂出版 一九八九年
- 『古本検定』 岡崎武志編 朝日新聞出版 二〇〇九年
- 『乱歩の軌跡 父の貼雑帖から』 平井隆太郎 東京創元社 二〇〇八年

（美術 堀口麗）

文学・マンガ資料紹介

いながきたるほ 稲垣足穂関連雑誌『文藝時代』と『クロネコ』から



右：『文藝時代』3巻5号、大正15(1923)年5月
左：『クロネコ』創刊号、昭和4(1929)年2月 ともに豊島区所蔵

文学・マンガ分野では、原稿など自筆資料だけでなく、作家が発表した作品や記事が掲載された、雑誌などの印刷物も資料として収集しています。文学作品の多くは、最初に雑誌で発表され、その後細部を書き直したり、ときにはタイトルを変更するなどの過程を経た上で、単行本として出版されます。雑誌は作品が世に出る際、一番最初に掲載される媒体であるため、発表当時の著者の意図を知る重要な手がかりとなります。また、時事問題や当時の風俗に関するエッセイなど

も掲載されており、時代の雰囲気や今に伝える貴重な資料でもあります。

今回ご紹介する二つの資料、『文藝時代』三巻五号（一九二六年五月）と『クロネコ』創刊号（一九二九年二月）には、稲垣足穂（一九〇〇—一九七七）の「ソシアルダンス（社交ダンス）」に関する記事が掲載されています。

足穂は、『一千一秒物語』（一九二三年）や『少年愛の美学』（一九六八年）などを執筆した作家ですが、実は大正一二（一九二二）年から昭和五（一九三〇）年頃まで、豊島区に住んでいました。当時足穂が住んでいたのは、西巢鴨町字新田にあつた「池内ダンシングパビリオン」でした。アメリカでダンスを学んだ池内徳子という人物が開いたダンスホールで、夜は社交場として開かれていましたが、昼間はダンスを習いに来る人々に教えていました。当時このホールで初めてダンスを習ったという人も多くいたようです。

『文藝時代』の記事では、「ソシアルダンスに就いて」と題した記事の中で、「ソシアルダンスのごときあへて拒む価値

もないやうなもの、それはシガレットを吸ふがごとき底のものまで受け容れられぬといふ者は、いかなる意味に在いてもこれからの社会に生存の資格を失つてゆきつつあるたぐひである。」と述べています。当時流行していた「ソシアルダンス」に対しては、男女がたがいに体を寄せあつて踊る様子などから、「風紀を乱す」という非難を浴びることがありました。足穂の記事はそのような非難に対して、ダンスのように、あえて拒むほどでもないものまで受け入れられないという人は、これからの社会において「生存の資格を失つてゆきつつある」と大変厳しい言葉で批判しています。

また『クロネコ』は、銀座のカフェ「クロネコ」が出版した雑誌で、多くの文化人が、当時の風俗や流行にまつわる記事を掲載しています。足穂は「近時流行の社交ダンスに対する御感想」というアンケートへの回答として「かういふ種類は別に奨励する必要もなければ、ムキになつて禁厭（さいえん）するのも野暮（よぼ）といふものです。」と書いています。

この二つの記事で足穂は、「耳かくし撲滅論」についても触れています。「耳かくし」とは当時の女性の髪型で、とくに「モダンガール」と呼ばれた女性たち

の間で流行しました。「撲滅論」は、それまで男性に従うことが美德とされた女性たちが、長らく身に着けていた着物と日本髪から、洋装断髪の軽やかな姿になり、思想的にも自由な生き方を求めたことへの反発として、出てきたのでしょう。足穂は「かつての耳かくし撲滅論は相手の耳かくし以上に軽佻浮華（けいちょううか）な時流の泡にすぎなかつたでないか。ソシアルダンス排斥（はいせき）もまたそのとほりである*。」と述べ、「耳かくし」も「ソシアルダンス」も排斥運動そのものが、単なる流行になつていゝるのではないかと指摘しています。

『文藝時代』の記事の終わりに、足穂自身が当時居住していた「池内ダンシングパビリオン」の住所を記載し、ご足労いただければいつでもできる限りのことをします、と述べています。

今回ご紹介した資料のように、近い時期に書かれた記事を並べてみると、その時代を作家がどのように捉えていたのかを垣間見ることが出来ます。稲垣足穂に関しては、今後も区内居住時の生活や、区ゆかりの作家との交流などについても調査を続けていきたいと思ひます。

*稲垣足穂「ソシアルダンスに就いて」

『文藝時代』三巻五号、大正一五年五月

（文学・マンガ 佐伯百々子）

豊島区をオリンピックピック聖火が走った日

今夏、新型コロナウイルス感染症の流行によって一年延期された、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催される予定です。東京でオリンピックが開催されるのは二度目で、いまから五七年前の一九六四（昭和三九）年二〇月に最初の東京オリンピックが開催されました。開催に伴い、聖火リレーも実施され、ギリシャのオリンピアで採火された聖火は、国外コースと空輸経路約一六〇〇〇kmを経て、日本全土を駆け巡りました。日本では、約一〇万人の走者が聖

火リレーに参加したといわれています。当時豊島区でも聖火リレーが実施されており、その様子が『東京オリンピック聖火リレー記念アルバム』に残されています。このアルバムは、一九六四年大会当時に豊島区長を務めていた木村秀崇氏のご家族より当館にご寄贈頂いたもので、豊島区における聖火リレーの準備から実施までの様子が記録されています。アルバムはオリンピック東京大会聖火リレー豊島区実行委員会が発行していることから、豊島区独自のアルバムだといことがわかります。



『聖火リレー記念アルバム』
（オリンピック東京大会 聖火リレー豊島区実行委員会発行）
木村節子氏寄贈



文京区へと聖火を受け渡す様子が記録されている。

聖火リレーの走者は、豊島区在住の一四歳から二〇歳の学生、社会人が選出されています。聖火リレーのコースは二区間に分かれており、これに合わせて二つのグループに分けられました。それぞれ代表走者、副走者、随走者併せて二三名で構成され、合計四六名の走者が聖火リレーに参加しました。走者たちは本番

の約三か月前から聖火を掲げながら走る練習や聖火の受け渡し動作の確認を大塚台小学校（現区立朋有小学校）と朝日中学校（現区立巢鴨北中学校）の校庭で繰り返し行っていました。当時はまだ残っていた、東京拘置所跡地（現サンシャイン60）と造幣局（現イク・サンパーク）の敷地外周が定番の練習コースになっていたことが記載されています。聖火リレー本番直前には、リハーサルとして実際のコースを走るなど、入念な準備をしている様子がアルバムからわかります。

豊島区における聖火リレーは、一九六四年一〇月七日に実施されました。北区から聖火を受け取る朝日中学校から巢鴨四丁目までと、巢鴨四丁目から文京区へ聖火を引き渡す巢鴨一丁目までの二区間合わせて約二kmのコースを走りました。このコースは白山通りを南下するもので、アルバムに掲載されている写真には、当時走っていた都電一八系統と四一



豊島体育館で展示されている一九六四年大会の聖火リレートーチ（豊島区体育協会所蔵）
系統の軌道が写っています。この聖火リレーで使用されたトーチは、要町にある豊島体育館で展示されています。持ち手の部分には「XV III OLYMPIA D TOKYO 1964」という文字とオリンピックシンボルが刻印されています。

二〇二二年七月一八日に実施予定の東京2020オリンピック聖火リレーは、池袋西口公園を出発し、中池袋公園をゴールとする区間と、南長崎花咲公園からトキワ荘マンガミュージアムまでの区間の二区構成で実施されます。一九六四年の聖火リレーが区境で聖火を受け渡すことを考慮して巢鴨中心のコースだったことに対し、今回は西池袋のグローバルリングやトキワ荘マンガミュージアムなど池袋駅周辺や長崎地域の文化施設をめぐる形でコースが設定されています。

（郷土 水吉雄人）

2021 年度豊島区立郷土資料館・芸術文化推進グループ事業予定 (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため、4月25日(日)から5月31日(月)まで臨時休館しました。
 ※今後の感染状況等により、休館や事業の中止あるいは事業内容や日程を変更する場合があります。
 ※詳細は『広報としま』、区ホームページなどで随時お知らせいたします。

収蔵資料展 (郷土)	「浮世絵・和本コレクション」	3月23日(火)～6月30日(水)
企画展 (郷土)	「葉と祈りの処方箋」	7月20日(火)～9月26日(日)
所蔵作品展 (美術)	「池袋モンパルナスが旅をする」	
所蔵作品展 (美術)	「生誕120年記念 小熊秀雄展」(仮題)	2月1日(火)～3月13日(日)
収蔵資料展 (文学・マンガ)	「文学・マンガ分野 収蔵資料あれこれ」(仮題)	
展示 見どころ解説	常設展示等の見どころを、学芸員がわかりやすく解説します。 ※事前申し込み不要 直接会場へ ※5月は中止、10月～1月は資料移転休館のため休止	4月24日、6月26日、7月24日、8月28日、 9月25日 各回土曜日 ※2月・3月は未定 各回14時～ 40分程度
庁舎まるごと ミュージアム (3階パネル展示)	美術分野 ①「絵画で観る！池袋駅古今東西」 ②「池袋モンパルナスが旅をする」	① 3月16日(火)～7月8日(木)、 12月11日(土)～3月31日(木) 予定 ② 7月9日(金)～12月10日(金)
	郷土資料分野 ①「企画展関連資料紹介」	① 8月3日(火)～11月30日(火)
講座・講演・ 見学会など	文学・マンガ分野 ※常設展示コーナーもあります。 ①「池袋の名画座～人世坐と文芸坐～」 ②「版画でめぐる豊島区」(仮題)	① 3月2日(火)～7月30日(金) ② 12月1日(水)～3月31日(木) 予定
	第16回池袋モンパルナス回遊美術館特別講演会 豊島区×立教大学「画家とコミュニティ～熊谷守一と中村彝を 中心に～」講師：小泉淳一氏	5月22日(土) ※緊急事態宣言に伴い中止
刊行物	郷土資料館・芸術文化推進グループだより 「かたりべ」140号～142号	年3回、2,200部、無償頒布 7月・1月・3月刊行予定
	研究紀要『生活と文化』第31号(付・2020年度年報) 企画展図録『葉と祈りの処方箋』	3月刊行予定 400部 有償頒布 7月刊行 700部 有償頒布
臨時休館・年末 年始の休館	①企画展の開催に伴う休館 ②資料移転および所蔵作品展の開催に伴う休館 ③収蔵資料展の開催に伴う休館	① 7月1日(木)～7月19日(月) ② 9月27日(月)～1月31日(月) 予定 ③ 3月14日(月)～3月31日(木) 予定

研究紀要『生活と文化』第30号(付・2019年度年報) 価格1,000円 2021年3月発行

※郷土資料館(としま産業振興プラザ7階)・行政情報コーナー(区役所4階)にて頒布

「学童集団疎開(十) 本土決戦態勢づくりの進行」	青木 哲夫
「乱歩にとっての「防空壕」一城北大空襲から読み解く一」	西方ゆり恵
「太田道灌が結ぶ妙義神社」	高田 萌恵
「鈴木家旧蔵「明治四十年間小品合作屏風」調査報告(2)」	井坂 綾
「雑司が谷旧宣教師館の事業に伴う所蔵写真のアンケート調査結果」	小山 勝美
「鈴木信太郎宛書簡について」	永嶋 里佳



資料寄贈受入れの 一時休止のお知らせ

資料移転及び準備作業のため
資料寄贈の受け入れを
2022年春頃まで、
一時休止いたします。

かたりべ No.140

2021年7月16日
豊島区立郷土資料館
東京都豊島区西池袋2-37-4
としま産業振興プラザ7階
電話 03-3980-2351

URL
<http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/bunka/shiryokan/index.html>

「かたりべ」一四〇号をお届けします。
今年度からミュージアム開設準備・学芸グループは、組織改正により芸術文化推進グループと改称しました。これまで同様、美術および文学・マンガの作品資料の調査研究と展示活用を、郷土資料館と連携して進めてまいります。
7月20日からは、企画展「葉と祈りの処方箋」が始まります。コロナ禍の現在、病の歴史と人々の祈りについて、地域資料から見つめ直す機会したいと思います。あわせて美術の所蔵作品展も同時開催いたします。皆様のご来館をお待ちしております。
なお当館は、9月27日から来年1月31日まで、収蔵資料移転のため休館いたします。皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いたします。
(郷土 横山恵美)

編集後記

